

和名	分類	特徴ほか	会える場所			
			ハイム	多摩川土手 (中野島周辺)	生田緑地	その他
ギフチョウ	アゲハチョウ科	別名「春の女神」	×	×	×	東北～中部 (東京では絶滅)

成虫発生時期 (月)											
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
○食草		食樹		発生回数/年		越冬形態					
カンアオイ				1		蛹 (さなぎ)					



相模原市 4月初旬 ウメの花で吸蜜。ウメが終ると順次サクラへ



相模原市 3月下旬 タチツボスミレで吸蜜



相模原市 3月下旬 サクラで吸蜜の後、ヒバの葉で休息



ヨーロッパタイマイ
フランス・アヴィニョン近郊 7月初旬
花はラヴェンダー

桜の開花に合わせて里山に出現する美しい小型のアゲハチョウで「春の女神」とも呼ばれます。日本固有の蝶ですが近年減少をたどり生田緑地を含むハイム周辺では見られません。従って蝶の季節の幕開けは、女神に会いに相模湖の奥まで足を伸ばすのですが天気に恵まれ温度が上がると桜、ツツジ、あるいはスミレなどで吸蜜する姿が見られます。一方、日本にはギフチョウと一目では見分けがつかないほどよく似たヒメギフチョウという別種の蝶がいて、この2種はそれぞれの食草、すなわちカンアオイ類（ギフチョウ）、ウスバサイシン類（ヒメギフチョウ）の分布境界に沿って「リュードルフィアライン」（リュードルフィア *Luehdorfia* はギフチョウの学名。概ね、フォッサマグナに沿ったライン）と呼ばれる境界線の西と東に棲み分けています。尚、奇妙な名前ですが採集されて新種の蝶と確認されたのが岐阜県であったことからついた名前です。虎のような特徴のある羽模様ですが、ヨーロッパ南部にヨーロッパタイマイというアゲハチョウ科の仲間がいて尾（尾状突起と呼びます）の長短の差はありますが羽の模様の構成がよく似ているので初めて見たときは驚きました。



相模原市 3月下旬 タチツボスミレで吸蜜